

# 下野市立祇園小学校

## 1 学校課題

### 自ら考え解決する子どもの育成

～生活科・理科・図画工作科・道徳の時間を中心に～

## 2 研究計画

本年度は、「言語活動」を各教科・領域全般において意識的に広めていく5年目として、生活科・理科・図画工作科・道徳の時間における思考力・判断力・表現力等の育成に取り組んだ。その中で自力解決能力と自己の学びへの自信を深めさせながら、ものづくりを通して実感をともなった理解ができるようにし、評価規準の設定や評価の方法の工夫改善についても引き続き研究を進めた。この研究は、2つの方向から取り組むことにした。

### (1) 「言語活動を通して論理的思考力を高める～説明力を伸ばす～」

- ① 思考力・判断力・表現力等を高めるために課題に対して自分の考えをもち、筋道を立てて説明する活動を取り入れ、個々の考えをより確かなものにしていく。
- ② 生活科・理科・図画工作科・道徳の時間における学習内容から、それらの目標を達成するためにはどのような「言語力」が必要かを検討し、具体的な場面において言語活動が図られるように研究する。
- ③ 学習評価における4観点の内「思考・表現」において、評価規準や評価方法の妥当性・信頼性について検証を図る。

### (2) 「ものづくりの学習を通して自らの力で判断し解決し表現する力を育てる」

- ① ものづくりに関する基礎的・基本的な知識および技能の習得を図る。
- ② 製作過程において、目的を達成するための工夫が見られるよう指導する。
- ③ 「考えの交流」を通して思考の深まりや広がり達成感をもつような授業の展開を工夫する。

## 3 研究内容

研究は、全職員を大きく2つの部会に分けて取り組んだ。

### (1) 授業研究部

低・中・高学年ブロックに分かれ、学年で一つの単元や教材を選んで研究を進め、事前授業と公開授業を行った。教材研究の段階からブロック協働で行うとともに外部アドバイザーの参加を依頼し、助言を受けられるようにした。

<授業研究会>

ブロック	学年	日程	単元名・題材名	外部アドバイザー
低学年	第1学年	11月17日	道徳 「くりのみ」	・佐々井信子教頭(足利市立葉鹿小)
	第2学年	7月16日	生活科 「うごくおもちゃをつくってあそぼう」	・人見久城教授(宇都宮大学教育学部) ・塩沢建樹指導主事(市教委)
中学年	第3学年	6月25日	道徳 「卓球は4人まで」	・佐々井信子教頭(葉鹿小)
	第4学年	10月24日	図画工作科 「わくわく ひみつ木ち」	・人見久城教授(宇都宮大学) ・塩沢建樹指導主事(市教委)
高学年	第5学年	12月8日	理科 「電磁石のはたらき」	・人見久城教授(宇都宮大学) ・海老原 忠管理主事(市教委)
	第6学年	9月12日	道徳 「海の勇者」	・渡邊 弘教授(作新学院大学)

### (2) 教材開発部

生活科・理科・図画工作科・道徳の教材室の教材を確認し、整備を行った。また、必要な教材（キットを使わない場合）の開発や材料の準備と技能を高めるための道具の購入、利用しやすい保管・活用を進めた。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 授業の実践例と成果

#### ① 第1学年の実践例 道徳「くりのみ」

##### 2－(3) 友情・信頼、助け合い

児童が発表する際には、根拠を示しながら話すこと、「です、ます」をつけて最後まで話すことを意識させたことで、説明力を伸ばすことができた。また、終末の場面で「くりのみカード」に書かせたり、それをBGM（ビリーブという曲）が流れる中で「たすけあいの木」に貼らせたりしたことで、児童の今後の実践意欲を高めることができた。



#### ② 第2学年の実践例 生活科「うごくおもちゃをつくってあそぼう」

「困ったよカード」を活用して友達にアドバイスをもらう言語活動を取り入れた。事前に書いておいたことで、様々なつぶやきが出て教え合いが自然にできていた。また、友達のアドバイスをもとに、試行錯誤しながら作品に改良を加える活動を取り入れた。「試す」「加える」「直す」を位置付けたことは児童のものづくりにおける思考力や判断力を高めるのに効果的だった。

#### ③ 第3学年の実践例 道徳「卓球は4人まで」 2－(3) 友情・信頼、助け合い

授業の流れを工夫してふり返りの時間を確保したことで、児童は今までの自分について深く考えふり返ることができた。終末の工夫として、ハート型のワークシートを用いてふり返りを行い、書き終えたワークシートをみんなで掲げたことは、お互いに友達のことを思って行動できていることを視覚的に気付かせるのに有効だった。また、児童にわかりやすいキーワードで学習のまとめを示したことで、相手の気持ちを考えて行動するという価値が深まった。

#### ④ 第4学年の実践例 図画工作科「わくわく ひみつ木」

「のこぎりチェックリスト」を活用して友達とお互いののこぎりの正しい使い方をアドバイスし合う活動を取り入れた。視点を持たせることで、活発にアドバイスすることができた。また、「2種類の厚さの木をまっすぐに切る」作業を通して、のこぎりを扱うときのコツを見つける活動を取り入れた。試行錯誤しながら木を切る中で、児童はのこぎりの動かし方や姿勢を考えながら木を切るようになり、技能が向上した。

#### ⑤ 第5学年の実践例 理科「電磁石のはたらき」

条件制御の実験において、班の中で実験を分担して行い、実験結果を持ち寄って伝え合う活動（ジグソー学習）を取り入れた。実験の目的意識がはっきりし、集中度が上がるとともに、児童の説明力を高めていくことができた。また、最強の電磁石の条件を考え、解決するために必要な電磁石を自分で作って実験したことは、自らの力で判断し解決する力を育てるのに有効だった。さらに、実験から導き出した条件を取り入れて作った最強の電磁石で「魚釣りゲーム」を行ったことで、科学的な思考力や表現力が高まった。

#### ⑥ 第6学年の実践例 道徳「海の勇者」 4－(3) 役割・責任

終末の工夫として、導入時から使用した児童の活動写真を掲示してふり返りを行った。掲示した活動写真の周りを学校の校舎の形で枠取りをしたことで、児童は学校を引っ張っていく役割を再確認し、自分たちの責任ある行動がより良い学校につながっていくことを視覚的に確認することができた。

### (2) 課題

- ・生活科では、児童の「こうしたい。」という思いや願いを取り上げていくことが大切である。また、グループごとの話し合いは話し方・聞き方を学ぶよい機会なので積極的に取り入れていきたい。
- ・図画工作科では、思考力を高めるためには用具の正しい使い方の場面で「どうしてそうなのか」を考えさせるような活動を取り入れていく必要がある。
- ・理科では、結果と考察を区別して書くことができるよう、文型を示すなど手立てを工夫したい。また、材料や器具等の学習環境を整え、児童が主体的に学習活動に取り組めるようにしたい
- ・道徳では、実践力から実践へつなげるための補助発問を工夫していきたい。